



Rotary



第2780地区
大磯ロータリークラブ

ロータリーのマジック

2024~2025年度RI会長
ステファニー A. アーチック

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

★事務所：神奈川県平塚市豊原町22-13 TEL/FAX：0463-36-2255

★例会：第1・第3・第5 木曜日 12:30~13:30 大磯プリンスホテル TEL：0463-61-1111 FAX：0463-61-6281

会長 田中 敏治

会長エレクト 田中 敏治

幹事 吉川 稔

第2613回 平塚・大磯・二宮RC合同夜間例会

令和7年1月23日 No.16



◇出席報告

例会	会員数	出席数	出席率	メイクアップ	修正出席率
2613回	15(12)	8	66.66%	—	—
2611回	14(11)	7	63.63%	—	—

◇欠席者（4名）

瀬戸、藤田、井上、布川会員

◇メイクアップ（0名）

◇会長報告

田中敏治会長



こんばんは、今年度大磯クラブの会長を務めております。田中と申します。

今年も平塚、二宮、大磯クラブ合同例会を開催して頂き平塚クラブの三荒会長・関口幹事、また平塚クラブの方々ありがとうございます。前回、私自身すごく楽しく色々な方と交流でき有意義な時間を過ごせました。私自身も大変、勉強になることも多くありました。その後、たくさんの方を教えていただいております。このような場合は私も大磯クラブ会員にとっても皆様と知り合え、親睦を図る良いチャンスだと思いますので、ぜひこの機会に多くの方々と親睦を深めて、次に会った時お互いに挨拶ができるような関係になれば良いと思います。

それでは大磯クラブ会長報告に移ります。

報告は2点あります。21日の会長幹事会でハラスメントについての話がありました。今後各個人としてもクラブとして特に注意すべき事柄だと思います。ハラスメントについての認識は各自個人差があると思いますが、資料などを使いながらハラスメントについて理解を深めていくよう今後クラブ内で取り組んでいきますのでご協力をお願いします。

2点目は大磯サミットにゲストとして来日されましたディクソンさんよりお礼と要望のお手紙が来ております。この要望についてはしっかりと協議を重ねて方向性を出していきたいと思っておりますので会員のご協力をお願いいたします。

以上 大磯クラブ会長報告です。

◇大磯クラブ紹介

越地貞裕会員

大磯ロータリークラブについて簡単に紹介させていただきます。当クラブは、山と海に囲まれ自然豊かで歴史や文化に富んだ大磯町にて、ロータリークラブの人道奉仕の理念のもと大磯らしい風格あるクラブを目指し1967年4月13日に発足し今年で58年目を迎えます。

昨年ご逝去された河本パストガバナーを筆頭に地域

貢献や数々の国際ロータリー活動に会員一同尽力し、現在は男性12名、女性3名の計15名の少数精鋭で活動しております。



大磯プリンスホテルを例会場とし、月に2回行っています。湘南の海を一望する抜群のロケーションで行われる例会は私共会員にとっても楽しみであり、よく晴れた日の景色は心が洗われる思いです。皆さまもぜひ一度いらしてみてください。

今後も河本パストガバナーの想いを引き継ぎ、大磯らしさを大切にしながら会員一丸となり地域へ、社会へ、世界へ奉仕の精神で貢献していきたいと考えております。

引き続き、平塚、二宮クラブの皆様と同じ2780地区の同志として共に歩んで参りたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

以上で当クラブの紹介とさせていただきます。

ありがとうございました。

☆スマイルボックス

- ・田中敏治会長：平塚RC三荒会長ならびに担当の方々、本日はお世話になります。よろしくお願いいたします。
- ・吉川稔幹事：平塚・大磯・二宮合同夜間例会楽しみにしておりました。よろしくお願いいたします。
- ・新宅文雄会員：平塚RC三荒会長並びにご担当の方々大変お世話になりました。有難うございます。
- ・三鈴よしの会員：3クラブ合同楽しみにしております。よろしくお願いいたします。
- ・越地貞裕会員：平塚・大磯・二宮合同夜間例会楽しみにしてきました。よろしくお願いいたします。
- ・岡みゆき会員：平塚・大磯・二宮夜間合同例会とても楽しみにしておりました。今年度、公共「イメージ委員長として初年度送ることができました。次年度は奉仕プロジェクト委員会でより一層楽しい大磯ロータリークラブを築き上げてまいります。
- ・吉川晃弘会員：新規加入です。宜しくお願いいたします。
- ・真間繁治会員：新参者です。宜しくお願いいたします。

◇卓話

◇◆失敗は畏れて挑戦は迷わず◆◇

映画「咲む」

監督 早瀬憲太郎 様



聴導犬ってご存じですか？

『身体障がい者補助犬』には3種類あります
盲導犬⇒視覚障がい者のサポート（白か黄色のハーネス装着）796頭
介助犬⇒手足の障がい者のサポート（介助犬記載マナーコート着用）60頭
聴導犬⇒聴覚障がい者のサポート（聴導犬記載マナーコート着用）50頭

我が家にも犬がいますが、聴導犬ではありません。でも、お客様が来ると玄関まで連れて行って知らせてくれたり、色々と協力してくれています。

耳が聴こえない生活とは？目をしっかり使っています！

街を歩いているとき…周囲の人の行動・様子を良く見て様々な事を判断します。

- ・救急車が近づいてきたら⇒周りの人は音のする方を見ます
- ・消防車が近づいて来たら⇒周りの人はどこで火事？とキョロキョロ見回します

デフリンピックは「音のない競技の世界一を決める大会」

視覚をスポーツの中で生かす能力がずば抜けています。

もし音のないルールできこえる選手と同じ大会に出場したら僕たちきこえない選手が大活躍すると思います。きこえる選手はどの競技でも音で判別している部分があると思います。すべては「音のある競技」なのです。自転車競技も例えばギアチェンジをする音をきいて相手選手のアタックが始まると分かる。僕たちデフアスリートはすべて視認で判断する。デフリンピックでは、

もうみんなの視線が身体中に刺さるくらいすごい。

どちらが良い悪いではなく、音のある競技のやり方、音のない競技のやり方、それぞれ違いあるということです。

音のない世界での競技があること、それがデフリンピックの魅力であり、デフリンピックを通してデフアスリートの凄さを知ってもらいたいと思います。オリンピックの選手と同様に情熱、時間、お金と自分のすべてを懸けて取り組んでいます。

ろう者がろう者に向けて競技の実況・解説をすること。

デフリンピックに限らず、デフスポーツの中でろう者の実況・解説がつくのが当たり前の状況にしたいです。大会をただのお祭りで終わらせてはいけません。デフリンピックが終わってからの未来が私にとっての本当の挑戦だと思っています。デフリンピックが「自分に何をしてくれるか」ではなく、デフリンピックに「自分は何ができるか」を皆さんに考えてもらえたらと思います。一人ひとりがやろうと思えば、様々な形でデフリンピックに関わることができる。

何ができるか考えるところからスタートすれば、デフリンピックが終わったあとも、その思いはつながっていくのかなと思います



「失敗は畏れて、挑戦は迷わず」

これは母からの教えなのですが、失敗は畏れ「ず」ではなくて失敗をきちんと怖がるんです。怖がるからこそそれに向き合って何が必要かを考える。その結果、失敗したとしても自分の中で納得できる。その積み重ねが挑戦を続ける大きな力になる。私は性格的にケセラセラ（なるようになる）で、良くも悪くも失敗を畏れずにやってきたのですが、今はきちんと失敗を畏れるようになった。そういう部分が、競技を始めてから僕自身が変わったと

ころかもしれません。

学習塾早瀬道場

聞こえる子どもの塾はあちらこちらにあります。ろう児のための塾はほとんどありませんでした。外国人が母国語で日本語を学ぶのと同じように、ろう者にとって手話で日本語を学ぶ場が必要です。

当初はいろいろな教科を教えていましたが、今は日本語や国語教科にしばって教えています。ろう児向けの映像教材や絵本の読みきかせのDVD制作にも取り組んでいます。

最近メールでのやりとりが増えて、日本語でコミュニケーションを取る機会も非常に多くなりました。ろう者にとって日本語の読み書き能力が最も問われる時代になったと思います。そうすると日本語のニュアンスや語彙、敬語の使い方が難しく、誤解や行き違いなどが起きて困っているろう者がたくさんいるわけです。日本語のもつあいまいさ、情緒、など素晴らしい魅力的な言葉を、ろう児にぜひ知ってほしいという気持ちがまず一番にあります。聞こえる人の場合、日本語は生まれた時から自然に耳に入ってきます。

それから国語という教科につながっていくわけですが、ろう児の場合、聴覚は使えないわけで聞こえる子と比べて日本語の習得に2倍も3倍も時間がかかります。耳が聞こえないからこそ一生懸命日本語を教えようとする、ろう児にとって日本語は勉強しなければならないもの、苦痛なものという意識がついてしまう。ろう児にとってまずは手話という言語があります。手話で十分にコミュニケーションをとりながら日本語の魅力をつたえていくことが、ろう児にとって一番スムーズに日本語に触れていけると考えています。日本語は面白い、日本語の表現は楽しいと思えるような塾でありたいと思っています。日本語が面白い楽しい、書くことが楽しいと目を輝かせてもらったときが一番うれしいです。

バリアフリーの先にあるもの

現状のバリアフリーは健常者が考えて作っている。それは決して、障がい者にとって使いやすいものではない事も多くあります。聞こえる世界と聞こえない世界があることを認めた上で、違いを知る。それで初めて先に進める。

聴者には音があるのは当たり前ですが、当たり前前のことが当たり前ではない世界がある。僕にとっては音のない世界が当たり前ですが、そうでない世界もある。理解しなければと思うより、まず知ろう、気づこうという気持ち、そして何よりも想像力が大切です。出会いがあって初めて、互いに新たな世界、

違う文化があることに気づく。それは、自分を見つめ、価値観を見直すことにもなります。

いまの社会で僕は『障がい者』という視線を向けられています。障がい者を『かわいそう』『理解してあげる』という見方ではなく、異なる文化をもつ一人の人間として、個として向き合う。互いに学び合い、どちらも助ける側にも助けられる側にもなる。そうなれば、障がいがあるとかないとかはどうでもいいことになります。『お互い様』になることが、共生社会の実現に近づく道だと思います。

